

JIS規格文書への学術論文の記載について

- **JIS規格文書には、参考文献として学術論文を記載することが可能。**
JISの様式を定めるJIS Z8301に、参考文献の表記方法について原則及び規則が記載されている。
- 査読付きの学術論文を参考文献として記載することで、**規格自体の信頼性や権威が向上し、規格の活用・普及に有用。**
実際にISOでは、Bibliographyとして学術論文が明示され、高く評価されている。
- JIS規格文書に参考学術論文を明記することで、**アカデミア人材の標準化活動実績や規格文書への貢献を可視化**し、業績として示すことができる。

<原則及び規則>（JIS Z8301 参照）

- 最終ページ（附属書がある場合は最後の附属書）の下の方または次のページに横線で区切り、“参考文献”の見出しを付けて記載。
※ただし、JISと対応国際規格との対比表の附属書がある場合は、その附属書の前のページに記載。
- オンラインで利用できる参考文献は、その出典を特定し、検索に十分な情報を記載。

<学術論文が記載された規格の例>

- JIS B1052-2（締結用部品－炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第2部：強度区分を規定したナット）29ページ
- JIS T0993-7（医療機器の生物学的評価－第7部：エチレンオキサイド滅菌残留物）72～83ページ